

ガンコ親父の

ウインドウズXPのサポート終了がどこのどこの、
学が話す内容が松次郎にはチンプンカンプンだった。最近の
若い奴は判りにくい横文字や省略言葉はっかりで、つまらんと
文句を言った。

松次郎は立ち上がると、鏡に映る頭を眺めた。少しか
頭髪が伸びていた。「母さん、ちよっと床屋に行ってくるぞ」
と、すぐに財布を持って出かけて行った。

「床屋に行ったら、そんなに切るところはないだろう」と、
頭髪については親父の遺伝を引き
継いでいるくせに、学は失礼なことを
言った。

「また、いつもの床屋だろう。近所に出来た
ヘヤーカット店のほうが安いのに」

松次郎に永年連れ添ってきた貴代には、
松次郎がその古めかしい床屋に通い続ける
「理由」が判っていた。新婚当時、松次郎の母親
から聞かされていたからだ。貴代はこれまで話
したことがなかった「床屋」にまつわる話を学に
始めた。

若い松次郎はいつも散髪時には、親から百円もらって
近所の床屋に駆け込んだという。その当時、床屋といえ
ば、婆さんが営むその床屋一軒だけだった。松次郎は口数の少ない子
で、散髪中もおとなしくじっとしていた。しかし、婆さんは
そのおとなしい松次郎が、本当は芯の強い子であることを見抜
いていた。本当にこの子は良い子だと、散髪が終わると
松次郎に「はい、これお釣りよ」と言いながら十円玉を握らせた。
家に帰った松次郎は母親にお釣りを渡そうとしたら、母親は首をひね
った。散髪代は百円のはずだ。「きつとそれ、おばあちゃんからのお小遣い
よ。松次郎がもらっていいわ」と母親は微笑んだ。
それ以後十円玉の小遣いはずっと続いた。

数年後、婆さんは病気で入院してしまった。小学校高学年に
なっていた松次郎少年は母親にお見舞いに行くことを告げ、
何を持っていけば良いかを尋ねた。そして、病院には一人
行くと言った。
ベッドの上で婆さんは、その小さな訪問者に
目を丸くして喜んだ。その少年は両手に花束
を抱え、バリカンを手に持つ婆さんの似顔絵
も持っていた。似顔絵には、おばあちゃん頑張
って、と、ジュニアの文字が添えられている。純粋
な温かいものに触れた婆さんの頬を大粒の涙が伝った。

お見舞いの日、松次郎少年の机の
上には割れた猫の貯金箱が散らばっ
ていた。松次郎が床屋の婆さんから
毎回もらう十円玉を貯めていることに、
母親は気付いていた。母親は婆さんの十円玉が
松次郎を立派に育て上げてくれたことに感謝
した。一心に人を想う、大切な心を持つ人間が
育ったことを。
やがて、「おう、帰ったぞ」という松次郎
の声が聞こえた。あの婆さんの
孫が営んでいる床屋から帰っ
て来たのだ。床屋の昔話を聞
いていた学は「しまっちゅ伝蔵」
を出してきて、「一杯やらない？」
と松次郎を誘った。
「学、どうしたんだ？」
「お前、目が赤くないか？」



奄美黒糖焼酎

しまっちゅ
伝蔵
でん ぞう

常圧蒸留



900ml (25度) 1800ml (25度) 1800ml (25度)

昔ながらの手造り
こだわり焼酎

喜界島の豊沃な大地の恵と豊
かな自然の中で、永年の伝統
を受け継がれた製法でじっくり
と醸しあげた「しまっちゅ
伝蔵」黒糖焼酎の味を全面に
出し昔ながらのコクのある味
と香りです。

2014年春季全国酒類コンクール・黒糖焼酎部門第1位受賞

床屋に乾杯!

25度
好評発売中



喜界島酒造株式会社
鹿児島県大島郡喜界町赤連296番地12
☎0997(65)0251

2009年10月喜界島は
「日本で最も美しい村」連合
に選ばれ、加盟しました。
喜界島酒造はこの活動を
応援しています。



the most beautiful
villages in Japan
喜界町
鹿児島県

<http://www.kurochu.jp>

お酒は20歳になってから。妊娠中や授乳期の飲酒は、胎児・乳児に悪影響を与えるおそれがあります。